


クラス	総合演習 101	担当教員	岡本眞理子
		テーマ	『20歳のときに知っておきたかったこと』から創造力について学ぶ
		著書・論文 研究課題等	<p>【共著】『マイクロファイナンスへの JICA の支援事例分析』国際協力機構, 2004年、『マイクロファイナンス読本』明石書店, 2000年</p> <p>【論文】「都市貧困問題に立ち向かうマイクロファイナンス」『都市問題』第99巻5号2008年、「南アジアにおける低所得層のための社会的保護システムの発展—インドとバングラデシュの事例より—」『日本福祉大学経済論集』第36号、「移行経済下におけるモンゴル遊牧農家のリスク対応手段の開発」2007年、「ネパール平野部農村における、マイクロファイナンスの急成長とその展望」『経済学雑誌』第105巻第1号, 2004年、「自立のための金融システム—ネパールにおける信用組合づくりの教訓から」『農林金融』54巻第7号, 2002年など。</p> <p>【研究課題】 貧困打開のための効果的介入のあり方、特にマイクロファイナンスと社会企業家について</p>

ゼミナール概要

キーワード： 創造力、問題解決力、プレゼンテーション力、実験

日本の社会では、今まで暗黙の前提になっていた「生涯雇用」はおろか、高校や大学を出ればどこかに就職できるということが崩れてしまいました。そして、大量の引きこもりや、親の年金をあてにして親のミイラ化を放置するといった、20年前には想像できなかった問題が生まれてきています。国際社会でもいっこうに紛争や貧困がなくなりそうにありません。そのような中で、限られた資源・環境を活用して問題を解決する能力が一層求められています。そのような能力から画期的な政策や事業が生まれてきます。それは国際協力の世界においても全く同じです。

そのようなことを考えている時に、一冊の本に出会いました。それが、テーマのタイトルにも入れた『20歳のときに知っておきたかったこと』（ティナ・シーリング著）です。これは、スタンフォード大学の教員が自分のクラスで実践した演習課題とその諸結果を紹介したものです。そこには、さまざまな「無理難題」ともいえる課題に対して、学生達がこれまた「珍案」と創意工夫で見事にクリアしていった多くの事例があり、そのカギとなったのは何かが分析されています。後半では、本人が今日に至った経緯とその過程で見出した教訓が述べられています。そこには「大人になっていく」とはどういうことなのかが示されており、それがタイトルに反映されています。就職力の半分くらいは「オトナ度」だと言われているので、そのパートもしっかり学んでもらいたいと思った次第です。

しかし、この本は、図式も箇条書きもなく、まるで講演記録をテープに起こしたような記述になっていて、字面を見ているだけでは重要なことを読みすごしてしまいます。

そこで、ゼミでは、このテキストを次のように使ってほしいと思います。

- 1) 読んだことの内容をまとめて箇条書に整理し、何がポイントかを明らかにした報告書を作成する。
- 2) それを、テキストには全くない図などを用いて、効果的にプレゼンテーションする。
- 3) 報告内容に関連する質疑・議論を行い、質問力、ディベート力を養う。
- 4) 学生たち自身がチームを形成して、テキストに登場するものと類似の課題を考え、戦略をたてて実験してみる。
- 5) その過程と結果を報告し、全員で検討、議論する。

授業計画（スケジュール）：

第一回目は、自己紹介、このゼミの方針と概要、今後のスケジュールの確認。

その後は、一週ごとに、次の内容と順番ですすめる。

- ① 担当者（二人組）を決めて、上記の1）、2）、3）を行う。
- ② 上記の4）をきめ、活動。
- ③ 上記の5）をする。

担当教員からのメッセージ

皆さんには「オトナ」になっていただくための試練の場を提供いたします（つまり、おばあちゃんだからといって甘くはないよ）。